からしだね

2023年3月号
(590号)

キリストの受難 カトリック池田教会
主任： 中村克徳司祭
住所： 〒563-0041　池田市満寿美町9－26
TEL ： 072-751-2400　FAX：072-753-4624
URL(ホームページ)：http://catholic-ikeda.sakura.ne.jp/church/index.htm

本号の記事の主題など

巻頭言「御受難修道会総長の池田教会への訪問にあたって」　中村克徳 C.P.

2月のガラスケースのみ言葉と解説

御受難修道会の総長と顧問が池田教会を訪問

編訳本「主の御受難を心に刻む365日」が修道会日本準管区から寄贈されました

１月の大人の日曜学校だより

みんなの談話室
「中島丹吉さん　ありがとう」
「中島丹吉さんは寅さん or 聖人？」

四旬節黙想会のお知らせ

宝塚黙想の家からのお知らせ

今月の表紙の絵について

巻頭言

御受難修道会総長の池田教会への訪問にあたって

中村克徳 C.P.

四年に一度行われる御受難修道会日本準管区の全体会議に際して、ローマ総本部よりヨアキム・レゴ総長とグェン・バルデ本部顧問が来日し、2月12日の池田教会の御ミサに参加されました。グェン神父は8月にも日本に来られて池田教会を訪問していますので、覚えておられることと思います。ヨアキム・レゴ総長は、四年ぶりの訪問となりました。短い時間ではありましたが、皆様と親しく交わる時間を持てたことで、とても満足し喜んでおられました。

ヨアキム・レゴ総長はオーストラリア国籍ですが、出身はミャンマーです。九年前に日本に公式訪問した際に福岡の宗像修道院を訪れ、日本の会員一人ひとりと親しく語り合う時間を持ってくれました。この時に総長が話してくれたご自分の体験を、皆様に分かち合いたいと思います。

今日は「人生における神の働きを知ること」についてお話しします。わたしはビルマ（ミャンマー）で生まれました。両親は健在でオーストラリアに住んでいます。兄弟は弟が二人と妹が一人です。ビルマは1960年代に軍事政権のクーデターによって困難な状況を迎えました。この国では正しいカトリック教育を子供たちに施せないと考えた両親は、オーストラリアへの移住を決断し、準備に入りました。他国への移住を政府に申告すると、海外への送金は禁じられ、パスポートではなく二年間有効の渡航証明書を渡されました。複数の手続きを要求されて、その度に料金を徴収されました。

出国の際に持ち出せたお金はわずかで、家も財産もすべて政府に没収されたのです。金の十字架ひとつだけが、自分に許された高価な所持品でした。父はパンアメリカン航空に勤務していたので、上司が「シドニーに着いたらパンアメリカン航空の窓口に行ってこれを出しなさい。もしかしたら仕事に就けるかもしれない」と言って、手紙を渡してくれました。

わたしたちは10月の朝7時頃にシドニーに到着しました。天候は寒く、荒れていたのを覚えています。パンアメリカン航空の窓口は９時にならないと開かないため、わたしたちはロビーで待つことにしました。たくさんの人が行きかう中で、一人の人が立ち止まり、わたしたちをじっと見つめているのに気がつきました。彼は近寄ってきて、あなたたちはどこから来たのかと尋ねました。その人はわたしたちと同じ皮膚の色をしていたのです。彼はビルマからの移住者で、なんと父の弟の知人でした。話しているうちに、父の友人も近くに住んでいることが分かったのです。こうして、見知らぬ土地で同じ国の人と関係を結ぶことができました。

９時になってパンアメリカン航空の窓口が開くと、父は職員の人と話し始めました。彼はとても親切に話を聞いてくれました。移民はたいてい手仕事か掃除の仕事に就くしかないのが常ですが、父はそれらの仕事には慣れていませんでした。彼は、いまここでは職員を募集していないが、他の航空会社に掛け合って仕事を探してみましょうと約束してくれたのです。すると、ある電話会社の人が父の話を聞きつけ、会って話したいと言ってくれました。その日は金曜日でしたが、その人は月曜日から仕事に来るようにと、父に告げたのです。

父は、仕事が見つかったのでここに住むことができるとわたしたちに告げました。その後パンアメリカン航空の職員は、豪華なホテルにわたしたち家族を案内してくれたのですが、とても料金が高い高級ホテルだったため、荷物だけを置いて他のリーズナブルな料金のホテルを探しました。それはまったく奇妙な体験でした。見たこともないような高層ビルが立ち並び、気温はとても低くて寒さが身に沁みました。ようやく救世軍経営の安価なホテルが見つかったので、そこに滞在することに決めました。すると、ホテルにいることを知った父の知人がそこにやって来て、わたしたちの生活が整うまで自分の家に住むようにと招いてくれたのです。

彼の家の近くには大きな教会がありました。父がオーストラリアへの移住を決意したのは、子供たちの信仰教育のためであり、何よりも教会と学校を最優先に考えてのことだったのです。わたしたち家族5人は近くのマリックビル教会を訪ね、そこにいた司祭に挨拶しました。その司祭は御受難会の司祭でした。父はビルマの教会でオルガニストとして奉仕していましたし、自分（総長）もそうであることを告げると、司祭はとても喜んでくれました。しかしオルガニストの奉仕者は揃っているため、聖歌隊に入ることを勧めてくれました。司祭は「君は、学校はどうするつもりか」と言い、教会に付属するミッションスクールに通うことを提案してくれました。制服を買うお金もないので躊躇していると、「そんなことは気にせずに学校へ来なさい」と言われたので、そこに通うことが決まったのです。シドニーに着いた時には自分たちはこれからどうなるのだろうと不安が募りましたが、仕事と住まい、学校まで、あっという間に決まってしまったことに、わたしたちは驚くしかありませんでした。

わたしたちは何か困難が起きると神様に祈ります。この先どうなるか分からなくても、神様が導いてくださることは分かります。後で振り返ると、いかに神様が働いてくださったのかに気がつくのです。自分が今できることをしてください。その先のことは神様にお任せするようにするなら、必ず良い結果に結びつくことでしょう。

３月のガラスケースのみ言葉

富は天に積みなさい

マタイ6章20節

３月のみ言葉についての解説　　中村克徳 神父

イエス様と弟子たちによる「神の国の福音」の宣教は、イスラエル国内の様々な地域を約三年間に亘って巡り歩くものでした。その際には、重い病気に苦しむ人や先天的な障害のある人を癒し、悪霊に取りつかれた人を解放するという奇跡をもたらすことで、神の愛と恵みはイエス様を通して与えられることを示されたのです。

時には周辺の異邦人の居住する地域にも足を踏み入れてみことばを語り、癒しの業を行いました。これは神の国が世のすべての国々と人々に及ぶ宣教の実りの先取りであって、初代教会が設立された後に、以前に訪れた地域の人々が福音を受け入れやすい素地を作るためでもありました。マタイ福音書による「山上の説教」は、ガリラヤ湖周辺で語られた福音を基礎としつつ、幾多に亘る宣教の旅で語られた内容も含め、イエス様の教えが読む人に伝わりやすいようにまとめられたものと考えられています。

「富は天に積みなさい」という教えは、山上の説教の中で祈りと断食についての教えの直後に、弟子たちと群衆に向けて語られたものです。当時のイスラエルでは、神の恵みは見える形で与えられるものだと信じられていて、豊かな富を所持している人は、神様がその人を愛している証であると考えられていました。それゆえに、イエス様の教えは富に対する当時の人々の常識を覆すものだったのです。

天に富を積むにはどのようにすればよいのでしょうか。マタイ福音書の19章にその答えがあります。一人の金持ちの青年がイエス様に向かって、永遠の命を得るにはどうすれば良いかを尋ねました。この青年はモーセの律法を幼い頃からしっかりと守る、ユダヤ教の模範的な信者でした。しかしながら、イエス様の口から発せられた言葉は、彼が考えてもいなかった答えだったのです。「もし完全になりたいのなら、行って持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい」（マタイ19章16～22節）。これを聞いた青年は、悲しみながら立ち去っていきました。彼には受け入れがたい言葉だったのでしょう。

現代社会に生きるわたしたちは、イエス様の言葉を文字どおりに実行するのは容易なことではありません。誰もが豊かな富を築こうと懸命に働き、社会全体がそれを奨励しているからです。わたしたちはこの青年と同様に、悲しみながらイエス様のもとを去っていくしか術はないのでしょうか。

それぞれが置かれている状況を踏まえて、この教えを考える必要があります。独身の青年であれば、そのまま実行できる人もおられるでしょうが、家族を養う立場のひとであれば、まずその責任を全うする義務が生じます。それを果たしたうえで、必要としない物を誰かに分け与えていくのは現実的な選択肢の一つです。富に執着しても、それを未来永劫自分のものとして持ち続けることはできません。一人ひとりが祈りのうちにイエス様が求めておられる答えを見つけ、それに快く応えていくことができますように。

御受難修道会の総長と顧問が
池田教会を訪問、　2月12日

主日のミサに参加された御受難修道会総長（左：ヨアキム・レゴ司祭、ミャンマー出身）と総長顧問（右：グエン・バルデ司祭、フィリピン出身）が挨拶の言葉を述べられ、来日の目的を話されました。その後、お二人はおしゃべりコーナーに加わり、信徒のみなさんと懇談されました。

図書（御受難修道会編訳本、「主の御受難を心に刻む365日」）が御受難修道会日本準管区から寄贈されました

昨年12月12日に御受難修道会日本準管区がドンボスコ社から「主のご受難を心に刻む365日」の日本語訳を出版し、一冊を池田教会に寄贈されました。全４０７ページの多くには、主に十字架の聖パウロの短い“ことば”が一年365日に分けて書かれ、巻末に解説「十字架の聖パウロの霊性のキーポイント」があります。

２つの“ことば”を例示します。

① 1月1日のことばの前に示された聖パウロの手紙（vol.Ⅱ,308)の長い“ことば”。

聖なるものでありたいと望むものは世の目から隠されていることを愛します。
苦しみのために甘美さを、甘美さのために苦しみを味わいながら。
その人の食べ物は、神の聖なるみ旨を行うことです。
何故なら、これが、苦しみの中でなされる時は、喜びのうちになされるときよりも辛く、喜びのうちになされるときは、つねに自己の意志が現われるので、神の真のしもべは、剥き出しの苦しみを愛するのです。
その苦しみを、ほかのなにものでもない、主ご自身の純粋なみ旨から受け取ることによって。

② 6月18日のページにある短い“ことば”。

聖体拝領のための、真の準備は、生きた信仰と、深い謙遜です。
そこから、神についての偉大な知識と、わたしたちは無であるという知恵が生まれます。

1月の大人の日曜学校だより

研修委員会

年間第４主日（1月29日）
マタイ５・１～１２a

「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子とよばれる」

今の世界の情勢より、平和の尊さを伝えていくことの大切さを分かち合いしました。今、この瞬間を大切に平和を実現できる人でありたいと思いました。

「腰を下ろされると、弟子たちが近くに寄ってきた」

イエス様の言葉を聞きたい!と近寄っていく弟子たちの姿と今の私たちの姿と重なります。イエス様が私の前で座られたら、何を語って下さるのだろう。

「心の貧しい人々は、幸いである」

「心の貧しい」という言葉がどうして自分に響くのかじっくり見つめると、自分の心の内の乾きと重なります。

自分の力ではどうしようも無くて途方に暮れた時、自分の無力感を痛いほど感じた時、自分の魂が何を求めているのかわからずカラカラになってしまう時、自分でもがいてももがいても、苦しみは変わらない時・・・。

そこで、神にすがり求めるしかないことに気づかされます。そして、「心の貧しい人々は、幸いである。天の国は、その人たちのものである」と。何という恵みでしょう。

みんなの談話室

中島丹吉さん　ありがとう　S.Y.

顔も名前も憶えられない私が丹吉さんを知ったのはおしゃべりコーナーの初代の司会者で、世界一やさしい先生の様に、みんなをリラックスさせて、本音でお喋りをさせてくださった時（20年も前）からでした。

百合子夫人は御ミサの聖歌の時に体中をタクトにしてリードをして下さっていました。お宅には大きな礼拝室があり、祭壇に十字架が飾られていました。それなのに丹吉さんは長男さんに先立たれ、自宅で声楽を教えていらした百合子夫人と北海道の次男さんにも先立たれ、その後は、信仰をよすが（縁）として独り暮らしを飄々とされていました。

令和元年７月頃に施設に入られ、令和５年2月１日に帰天されました。素朴で正直な面影とお祈りを私達の心に籠めて・・・。

いまごろはイエス様の下で、家族に積もるお話しをされていらっしゃることでしょう。

中島丹吉さんは　寅さん or 聖人 ？　T.O.

中島さんの訃報が地区委員の通信網で知らされたその日に、司祭館から「からしだね」に掲載された中島丹吉さんの長めの原稿を探しているので、協力して欲しいとの電話があった。2004年の暮れから池田カトリック新聞の編集はパソコン用のマイクロソフト社の冊子編集ソフトを利用し始めていて、検索機能を活用できるようにpdfファイルへの変換後に検索を行ってみると、翌年の「からしだね」354号にかなり長文の2004年度の評議会議長退任時の型破りな中島さんの檄文を見付け出せた。司祭館にその檄文を報せ、自らも読んでみると極めて率直な表現に満ちていて些か驚かされたが、評議会議長の経験は評議員の意見をよく聴くことに在ると断じ、それは神のことばに触れられる佳き機会となると立候補を勧める趣旨であった。幸いにその目的を果たせたようなのでその全文コピーを(A) として紹介します。

さらに、2006年に文芸社から発行された中島さんの著書「世界一やさしい先生にさせて下さい」を研修委員の磯野さんからお借りして、読ませていただいた。第2次世界大戦以降に誠実な丹吉さんの厳しい現実に全身・全霊を込めて、立ち向かった様が、詳細に書かれていた。その終章（第4章）は一転して、神さまと共に歩んできた人々への感謝と「いつも喜んでいなさい」の聖句で振り返っているその全文（B）を紹介します。偶然だが、わたしは中島さんと同年の生まれで、その後の82年の歩みが共に太平洋戦争と戦後の冷戦の曖昧さに翻弄され、成年後にキリスト教の信仰に巡り会う共通点があったことを全巻を通して知ったのでした。

（A）「御手にすべてを委ねて」2004年度信徒代表退任挨拶　2005年「からしだね」345号から転載

大体、ボクはﾊﾟｯﾊﾟﾗﾊﾟｰだと思います。とりえは、風のように生きてることと大声でﾊﾞｶ笑いをすることです。猛煙家で酒好き、ﾄﾞ演歌のｶﾗｵｹ大好きにSF映画好き、その上貧乏人なんです。よくまあ、こんなボクが由緒正しいｶﾄﾘｯｸのｸﾘｽﾁｬﾝになったものです。さらに議長なんて大それた立場になって、人様の前でしゃべりだしたのだから、神様もあきれてられると思います。教会をけがしてしまってすみませんでした。

女房のゆりちゃんはﾄﾞ演歌とタバコをいつも怒っています。と言うのは、百合ちゃんは由緒正しいｸﾗｼｯｸの愛好家だからです。よくまあ、こんなボクと百合ちゃんは結婚してくれたものです。ボクが20歳のとき「大好き～」と言ってラブラブをはじめたからです。65歳の今でも彼女は後悔しているかも分からないので、出来るだけ彼女の言うことは聞かないとだめだ、と自分に言い聞かせているつもりです。第一この歳で彼女に逃げられたら、僕は一体どうなるのでしょう。死んでしまうかもしれません。彼女のおかげで人の言う事を聞くという訓練が少しは出来たかもしれません。

議長になったきっかけは、聖堂の前でぼんやりとタバコを吸っていたら、前々議長が「中島さんならと思い、副議長を引き受けて頂けませんか。決まらず困っている。」と言われました。１週間後に承諾しました。理由は簡単でした。人の言う事を聞こう、と思ったからです。イエス様もマリア様も命をかけて従順を示されました。ましてや教会の評議員になったぐらいで殺されるわけではないでしょう。多忙と言えばいつでも多忙の人生です。前々議長は神ではなく人間です。しかし、神様は、大空や大地、猫をも動かされますが、神様は、おもに人間を通して自分に働きかけてこられます。

神様の声は凡人のボクには聞こえません。人の声は聞こえるんです。人の声に従っていれば、いつかきっと、この世でも神様に逢えると思ったんです。自分にとって都合のよいことだけは聞こえて従うけど、都合の悪いことは拒否していたらキリスト教徒にはなれません。何故ならイエス様が承諾された十字架は、最も過酷で苦しく、「自分にとって最も都合の悪い」道なのに、それに従われたからです。そこまでして人類を罪か ら解放しようとされる神様って不思議な方だと思います。またマリアさまは、天使のお告げどおり、処女のまま神の子をお産みになられました。なんと美しい従順さでしょう。全生物、全宇宙が感動で身を震わしたことでしょう。10数年前共産党員からｸﾘｽﾁｬﾝに回心したとき、『共産主義は反抗と闘いの思想です。しかし、シトー会･トラピスト修道会の修道書「すべてを御手に委ねて」に従順思想が書かれていて、深い感銘を受けましたが、にわかに実行できるものではありません。教師時代、問題生徒や犯罪を目の前にして彼らの声が聞こえるようになり、彼らの叫びが神の声と思えるようになって、やっと「従順な教師になれて」、真の喜びを全ての生徒たちと分かち合えるようになれました。僕もイエス様の生き方に救われたのでした。

従順は愛を生み、神様に出会えるのです。ﾎﾝﾄｳです。

議長をやっていて一つを除いて何もつらいことはありませんでした。むしろ楽しいものでした。ばたばたと煩雑さと忙しさの中で、あの書類をAさんに渡したいと思ったら、目の前にたまたまAさんが現れ、雲田助祭さんはどこにおられるのかなあ、と探そうと思ったら助祭さんが現れるんです(ｼﾝｸﾛﾆｼﾃｨ・ﾕﾝｸ)。苦言や注意の電話もかかってきます。しかし、気づかなかったことや忘れていたことが思い出せ、有難い電話でした。不思議なことに、その電話内容が必ず次の日曜日に役立っていたのは、驚くべき神秘でした。苦言や失敗の中でも神様は働いておられるんです。いかなる意見、すべてに風のように動かされて用事を済ませば楽々勤めは果たせました。電話やその他で人に頼んだら、みんな快くやって下さいました。教会って不思議なところです。ハリーポッターの国みたいで実に面白いところです。やはり神様がいつも助けてくれていると、ひしひしと実感出来、喜んでいました。そうです、やっぱり神様に逢えたのです。文字通り神様を実感させて頂いた２年間でした。まるで映画を観ている様な世界、と言うより、映画の登場人物のようで、その傑作に大笑いをしてしまいました。たぶん総監督は信者全員を動かされているイエス様にちがいありません。御聖体で一つに繋がれていた人々の「神の国」を垣間見てしまいました。しびれる世界です。

そうです。皆さんの中に、皆さんの背後に神様がおられたのです。

つらいことのたった一つとは、次の副議長を27人に頼みましたが、それぞれの方に事情があって引き受けて頂けなかったことです。それぞれの方の事情や仕事の中にも神に仕える厳しいことがおありだから、あまり強引に頼めません。やはり僕の頼み方が悪く、ﾊﾟｯﾊﾟﾗﾊﾟｰだからかもしれません。どうかお許しください。総監督のイエス様はきっと何か考えがおありなのだと思います。

この役目は役目で神様に出会える最高の幸せのチャンスなのですが･･･そしてぜひ評議員にしか味わえない喜びを体験してほしいのですが・・・あなたもこの珠玉の名作「神の国」の登場人物になってみたいと思われませんか。一歩だけ飛び越えて、夢のような世界にワープしてみませんか。

Ⓑ 著書「世界一やさしい先生にさせて下さい」の終章　「いつも喜んでいなさい」

　この世は「愛の学校」の生徒、人はその生涯において、いろいろなことに遭遇します。苦労のときもあります。しかしどの体験も一つの無駄もありません。一見無駄のように見えるだけのことです。苦労から何かを学び、次に生かされていきます。すべての過去は現在に繋がっていき、また未来を生んでいきます。そして最後は、目に見えない神秘的なことを見出し、愛の尊さを感じ、反省したり、愛のことを学んでいくのです。

今から考えると、父を失ったときも、あの貧しかった子どものときも、分裂授業の中学時代も、働きながら勉強していたときも、マルクス主義に出会えたときも、荒れていた中学生に出会えたときも、息子が死んだときも、三十三分間の（心室細動時の仮？）死状態のときもそうなんです。きっと次の自分を育ててくれているんです。イエス様がいつも傍についておられ、きっと励ましてくれていたのです。そして、今全てを肯定し、感謝できることを喜んでいます。
つまり、三条の教会に行くきっかけとなった最初の貧しさこそが、僕にとって、神様に出会える「最大のお恵みのとき」だったと言えるでしょう。神の「み摂理」は計り知れないものがありました。尊い体験をさせて戴いていたと思います。
人間の歴史もお同じことが言えそうです。戦争やテロ、政治、会社や、日常生活での些細なことに至るまで、しかも、苦しい対立でさへ、今は無駄のように見えますが、全てが完成した時には「美しい織物のようだ」と言って喜べる時が来ると思います。
　わたしたちの人生は、「愛の学校」に通学している生徒のようなものです。無事卒業できるまで、頑張らなくてはなりません。初級コースは、恋愛や家族、友から学びます。中・上級は、苦しい時に頑張れることです。そして、命を懸けてでも「愛する魂」を守ることです。
僕は、定年後は年金生活で再び貧乏になってしまいました。スーパーで安いものをさがします。「貧乏に挑戦する戦士」をしています。百合ちゃん、未だに歌好きですが、娯楽の一つは、ビデオでフーテンの寅さんこと「男はつらいよ」シリーズ（例「寅次郎　真実一路」）を見ることです。「何でやねん」と聞くと、「寅さんと丹ちゃんはそっくりやー」と言っています。「さくらに心配をかける」ところかもしれません。僕は、つまらないご苦労を掛けてきたんやなーと思います。

◎いつも喜んでいなさい

　神さまからの贈り物、大好きな百合ちゃんに「好きな聖書のことばは？」と聞いてみました。すると、「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんな事にも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて。神があなた方に望んでおられることです」（パウロ。テサロニケの信徒への第一の手紙５－１６～１８新共同訳聖書）と言ってくれたんです。昨年に僕が植物状態で一生を終えるかもしれないというのに、「いつも喜んでいなさい、絶えず、祈りなさい」と言う言葉がすきだといえるのは、並ではありません。暑い信仰というか、涙が出る思いというか、この愛の力で僕は治ったかもしれません。

この強い信念を持つ百合子の百合は、聖書の次のことばから出ていたんです。百合ちゃんの母親が聖書ことばを語ってくれていました。「……あなたが思い煩ったからと言って、寿命を一刻でも伸ばす事ができるだろうか」

「着るもののことを何故思い煩うのか。野のゆりがどのように育つかをよく見なさい。骨折ることも、紡ぐこともしない。あなた方に言っておく。栄華を極めたソロモン王でさへ、この花の一つ程にも着飾ってはいなかった。」「……神はこのように装ってくださるのだから、ましてあなた方に対しては、なおさらのことではないか」（マタイ６－２７～３１フランシスコ会訳聖書）

中島丹吉さんが20世紀の前半にお生まれになったご家庭は世界第二次大戦中から父を亡くして一家が離散し、養母に預けられて大学卒で高校の社会科教師として百合さんと結婚し、公立小学校で幼い子供たちに交わって、その教育に天命を感じるも、二人の息子さんを亡くする不運に見舞われ、65歳の折にペースメーカーの世話になるハンディーを負い、７年後には連れ合った百合さんと死別するも、中島家の最後まで独りで明るく生きられたと伝えられています。そうなのです、中島さんを知る人は明るかったと異句同音で仰います。どうしたら、多くの不運な出来事に遭遇して、それを従順に受け入れて、独りの人間業とは思えないほど明るく生きることができたとおもわれますか？

中島丹吉さんの遺された書き物を読むと、人生を努力して頑張ってそのような人になろうとか、教会の使命を全うしようとされたではなく、この世を神様に従って生きるとは自らが神の国に近づいていくことに気づき、そのことを自覚してそこに自分を投げ込むと、生き生きとしたイエスさまとの関りと人と人とがお互い繋がるようにこの世＝学校では少しずつ互いの間に差別がないのを体感する場にゆっくりと替わって行くのを感じられたということではなかったか？

つい先日、御受難会日本準看区が教会に寄贈された編訳本「主の御受難を心に刻む365日…十字架の聖パウロとともに」の冒頭の聖十字架のパウロのことば（本誌、６ページに紹介されている）を読み、「・・・その苦しみを、ほかのなにものでもない、主ご自身の純粋なみ旨からうけとることによって。」と言うことなのでしょうか？

みなさんは中島丹吉さんは葛飾の寅次郎さん　それとも　池田の聖人　のどちらと思います？

どちらにしても、故中島丹吉さんがお元気なころのお写真を眺めたいと思いながら、古い「からしだね」をめくってみましたがありません。どなたかお持ちならコピーを作らせてください。中島さんは寅さんに似ていたかなあー。

「みんなの談話室」を閉じます

四旬節黙想会のお知らせ

本年の四旬節黙想会は四旬節第２主日（3月5日）に野田正弘神父様（豊中教会）の指導で行われます。

尚、当日のゆるしの秘跡は野田神父様がなされます。

※当日以外の日曜日のミサ後は中村神父様のゆるしの秘跡。平日については神父様とご相談ください。

研修委員会

宝塚黙想の家からのお知らせ

■ 日帰り黙想会 10：00～15:30
3月14日(火) 指導：稲葉 善章 神父
3月23日(木) 指導：染野 治雄 神父
3月24日(金) 指導：山内 十東 神父

■ 一泊黙想会
3月14日(火) 17:00～15日(水) 15：30
指導：稲葉 善章 神父

■ カトリック教会のカテキズム
3月 8日(水) 10:00 ～ 12:00
3月22日(水) 10:00 ～ 12:00
指導：染野 治雄 神父

■ 聖地エルサレムを学ぶ
3月23日(木) 10:00～12:00
指導 ： 笹田六合豊 修道士

■ ギリシャ語で味わう聖書のことば
3月 7日(火) 10：00～12:00
指導：稲葉 善章 神父

■ 聖書の基本
3月 1日(水) 10:00 ～ 12:00
3月15日(水) 10:00 ～ 12:00
3月29日(水) 10:00 ～ 12:00
指導：山内 十東 神父

上記の各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。☎ 0797（84）3111

今月の表紙の絵について

イエスのご変容を描いた作品である。ティツィアーノ（1490～1576）により1560年頃に制作された油絵で、ヴェネツィアのサン・サルヴァドーレ教会にある。

イエスはご自分がエルサレムへ行って、長老、祭司長、律法学者から多くの苦しみを受けて殺され、3日目に復活することになっている、と弟子たちに打ち明け始められた。（マタイ16：21）弟子たちが動揺すると、イエスは厳しい言葉で諭され、わたしについて来たいものは自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい、と仰せになる。その6日の後、イエスは、ペトロ、ヤコボ、その兄弟ヨハネだけを連れて高い山に登られた。その山頂で輝かしいご変容をお見せになる。マタイは記している。「イエスの姿が彼らの目の前で変わり、顔は太陽のように輝き、服は光のように白くなった。見るとモーセとエリアが現れ、イエスと語り合っていた」（マタイ１７；２～３）イエスの十字架の死と復活をお示しになるできごとだった。

3月5日の四旬節第2主日では、ご変容を記したマタイ１７章１～９節が神のみ言葉として朗読される。

編　集　後　記

子供が侍者をしている事。広報誌が毎月発行されている事。地区の連絡網がある事。池田教会の当たり前が、他の教会ではそうでない事がある。連絡網で中島さんの帰天を知った。一方で、からしだねで初めて知る帰天もある。小正さんのがそうだった。からしだねの折り込みを長らくお手伝いいただいた。いつも奥様の写真を前に置いて、ミサに与っておられた。コロナで会えないだけなのか、何かの理由で教会に来られないのか、分かりづらい昨今である。

(My)